

株式会社 大山建工

S 様邸

ユーザー訪問

DATA

三戸郡五戸町

2016年4月竣工

■延べ床面積／平屋建て91.00坪(301.42㎡)

■使用青森県産材／クリ(土台、濡縁、塀)、スギ(柱、母屋、天井板)、アカマツ(床、梁、胴差)、ケヤキ(柱)。(北山杉の丸太以外すべて青森県産材)



広い屋敷を囲む塀越しに、瓦屋根が見えている。平屋で、流れる美しい屋根の姿は入母屋だ。五戸町の郊外に完成した数寄屋建築のS様邸。南の道路に面して塀が東西に長く伸び、樹木が枝を広げる東南の位置に門が建っている。ここが、お客様を招き入れる「表門」だ。入ると、ピンコロと呼ばれる小さな四角い御影石を敷き詰めた駐車スペースになっていて、その脇、池から水が流れ出る細い水路を渡った先にもう一つ門がある。「中門」である。門をくぐったお客様を、この家の亭主とともに、池を配した日本庭園がお迎えする。——外観からだけ受ける印象は、いったいどんな人が住んでいるのだろうか、通りすがりの足を止めてつい見渡すほどに大きな構えではあるが、周囲から浮き立つことなく、田園風景と溶け込んでいるのは、数寄屋建築の旨とする「質素」な造りが自然と一体になっているからだ。設計は、建築家の前田伸治氏(前田伸治十暮らし十職一級建築士事務所代表、伊勢市)、施工は(株)大山建工(大山重則社長、五戸町)。上棟から1年半がかりで竣工したS様ご夫婦の「終の棲家」に込められたおもてなしの心を、大山重則社長が語った。

「池を望む平屋の家を」 数寄屋建築で終の棲家

敷地430坪(1421・48㎡)。建物は平屋建て91坪(301・42㎡)で、車庫が同24坪(79・49㎡)。池を中心とした庭を眺められるよう各室が雁行して連なっている。格式張った書院造りとは反対に、虚飾を排し、内面を磨いて客をもてなすという茶人の心を反映して、質素ながらも、洗練された意匠を旨とする日本の伝統建築が数寄屋建築



お客様を招き入れる「表門」(左)と、その先にあって亭主が出迎える門「中門」(右)

築。「池を望む平屋の家を終の棲家としたい」というS様の要望が、青森県産材と「大山の工衆の技によって叶った。大山社長の話 「なぜ『門』を建てるか」といいますと、お客様



“終の棲家”としたいS様の要望どおりに完成した池を望む平屋

を家へ招き入れる“おもてなし”の形として設けるわけです。逆に、家の中から家宝を外に逃がさないためという意味も込められています。

中門から玄関までを『露地』と呼びます。この露地には、玄関への通路というだけでなく、仏教用語では『煩惱、束縛を脱却した境地』の意味があり、招き入れられてその家に入るときは、心をきれいに洗って、から入るといふ、精神的に準備をする場所になっているのです。

数寄屋建築は、豪傑な造りであつてはなりません。例えば庭木が、これでもかといった威圧するような大きな木であつてはならない。門もそうで、これでもかといった厳めしい造りではなく、ひ弱な感じのものでなければなりません。前田伸治先生の言葉を借りれば「軽々とした風貌を表現するのが数寄屋の骨頂」となります。

建物も平屋にして低くしているのもそのためです。建物を

高くすると城みたいになつてしまふ。そうすると高い目線から人を見下ろすことになる。それではおもてなしにはなりません。出来るだけ低く抑えながら謙虚に。見た目には謙虚ではあるけれども、使っている木材は目の細かな、すごい材を使っている。表面は軽々しく、それを裏で良質の材と高度な技でしっかり支えている。それが、おもてなしの心です。

表門から中門をくぐり、露地を通つて、ここが玄関(大山社長が案内してくれた)。土間と、畳敷きの『取次』の間にある、ケヤキの一枚ものの板を『敷台』といいます。(実際に大山社長がそこに上がつて)長さが2間(3・64m)もあるので本来なら真ん中に束を立てないと弱いのですが、実はここにも工夫が隠されています。板の表の部分は人が乗ればたわみそうに薄く見えますが、奥のほうがり3センチ厚くなっているのです。つまり板を横から見ると、斜めに



「中門」から「露地」を通して玄関へ向かう

カットして、手前になる部分を薄く見せているのです。細工を表に見せず、裏で支える、ということですね。

取次の高さは、玄関の土間から45cm。お迎えする亭主の目線が、お客様のそれよりも高くならないように昔からそう決まっています。伝統的な寸法です。取次には、2枚の引き分けの障子がついていますが、この障子には取っ手が付いていないので、閉



とりつぎ
広々とした玄関の土間と、そこから続く客を迎える「取次」の間

めてあるときは玄関側から開けられませんか。なぜそうなっているかといいますと、閉めてあるときは、入つてはだめ、開けてあれば、入つてください、という意味があるのです」

**木を生き物として使う
建物の造形がより深く**
前田伸治氏は、数寄屋建築について、同氏が設計した千葉県松戸市のW様邸(榎)大山建



自然味を生かした風情が漂う茶室

工施工。2014年5月竣工）
で行われた見学会での講演で
次のように述べている。
「茶室のことを『数寄屋』と呼ぶ
ようになったのは、千利休の

古田ふるたおりのへ織部こぢえんじゆうや小堀遠州こぼりえんしゆうの時代の
ことです。それから400年も
の歳月を経ても今なお私たち
の心に生き続けているのは、数
寄屋の自然味を生かした風情



広々とした日本庭園が見渡せる開放感あふれる和室

が日本人の琴線に触れてくる
からでしょう。自然味を生かす
建築というのは、使う『木』も生
き物として捉えることです。そ
れぞれの木の肌や持ち味を造

形に生かしているというところ
が数寄屋の持ち味で、ヒノキに
はヒノキが持つ柔らかさがある
し、ケヤキは木目が男性的と
いった木の肌の性格がありま



大自然の営みを凝縮して表現されている日本庭園

す。木の自然味を生かすことにより、よって建物の造形がより豊かになる。それが、日本人が深く愛する「自然」を生かした数寄屋建築なのです」

大山社長の話 「和室にお客様を迎えるときは、『入側』から迎え入れます。入側とは、和室に接した畳一畳分の通路のことです。亭主が座るのは、炉が切つてある場所です。そこでお茶を淹れませぬ。お茶でおもてなしをするだけではありません。使っている木のそれぞれの持ち味を生かした和室の味わい深さや、畳に座つた先に大きく開放された窓越しに展開する日本庭園も、お客様をおもてなししてくれます。そういう、いい位置に和室を設けるわけですね。」

庭の奥に見える滝口は、滝を模して、深山から流れ出た水が、滝となって流れ落ち、やがて大きな流れになっていく様子表現しています。池の水面に反射した光が、北山杉の小丸

太を垂木に使つた下屋の化粧、屋根裏に反射して揺らぐ様は、風情がありますよ」

丸太梁の木組みと茶室 伝統を取り入れた住宅

30数年前、大山社長は茶室を学ぼうと京都の中村昌生氏（京都工芸繊維大学名誉教授）を訪ねた。数寄屋建築の第一人者である中村氏を中心に設立された財団法人・京都伝統建築技術協会に入会する。そこで、中村氏に師事する前田伸治氏と出会つた。前田氏と大山建工が一緒に仕事をすするきっかけとなつたのは、10年ほど前に仙台で建てた数寄屋造りの現場。南部アカマツの丸太梁を組む「木組み」と、茶室という日本建築の伝統を一般住宅に取り入れた家づくりが、そこから展開し始めた。仙台の現場に使う木材選びに大山建工の加工センター（五戸町）を訪れた前田氏は、「青森には素晴らしい木がまだまだたくさんある」ことを

知る。大径木だからこそ目の詰まった良質な材料が取れる。樹種もヒバ、スギ、ケヤキ、アカマツ、クリなど実に豊富。「青森はまさに建築材の宝庫だ」と氏は讚えた。

大山社長の話 「(リビングの

小屋裏を吹き抜いた天井を指差して)太い柱や梁などを組む建て方を『軸組』と呼びます。日本建築の伝統工法で、太い材寸の木材を組むことよって建物に強度を持たせるのです。S様邸もこの伝統工法で建てられています。八角形に角を落としたアカマツの丸太を交互に組んであるのが『木組み』です。1本の梁の長さは11メートル。途中で継いだものではなく、一本もので、全部で5本使っています。11メートルの長尺ものなんてどこの材木店でも売っていません。使う木材を自社所有の山か、地場の山から調達し、当社の加工場で大工が加工するのです。床に張っているアカマツのフローリングもそうで、継ぎ目が目立た

ず、まるで一枚ものを張ったように見えるのは、そう見えるように面を取らずに加工してあるからです。それと、建具も一枚一枚職人が製作したもので、既製品は一つも使っていません。すべて手づくりです。柱や梁だけでなく、屋根裏もたくさん大きな木で組んであるからこそ、36帖もの広いリビング・ダイニングを、大黒柱1本だけで支える開放的な空間づくりが可能となったわけです。太い木材の調達と、組み立てる大工の技が揃ってこそ実現できるのです」

前田氏はS様邸について、自身のブログ『前田伸治十暮らし十職』でこう綴っている。

《東西に長い400坪ほどの敷地に、雁行するように建物を配した。庭の池を眺めて暮らすのが若い頃からの夢、という施主の気持ちを汲み、各室から眺める池を意識しながら全体を整えた。土地の東西の長さを生かすことで、主室全てを南面させ





梁や柱はもちろん、建具やフローリングの板1枚1枚に至るまで職人の手で丁寧に仕上げられている

ることができ、各部屋が重なることもないため、日照に加え風通しも良いことだろう。平屋の建築は、流れる屋根の姿もひとつの魅力で、周囲の庭との取り合いを踏まえ、いかにいきいきと作れるかが見どころでもあ

る

大山社長の話 「和室からリビングからも、塀の向こうに連なる丘陵や林が眺められます。春には新緑が、秋には紅葉が、四季折々の風景が借景となつて庭園に彩りを添えてくれ



四季折々の風景が借景として楽しめる大開口の窓



庭の池を眺めて暮らすのが夢だったという施主のこだわりが詰まった日本庭園

ます。400年前の桂離宮で、天皇や公家達が池に張り出した濡縁から中秋の名月を愛でながら和歌や俳句を詠んだ歴史ロマンに思いを馳せてみるのも、おつなものでしょう」

(写真提供/株大山建工)

【「遮熱効果」——S様邸は、日本建築の「伝統」に加え、「電気代ゼロ」という特筆すべき高度な住宅

性能を備えている。オール電化で、設置したエアコンは8台。室内はどこも常に一定温度に保っている上、24時間換気にも電気を使用しているのに、電気代がタダ。どころか、この4月(2016年)には太陽光発電による売電が使用電力を上回った。施主のS様によると、「生活し始めた昨年12月の電気代は6万5千円。1月は5万3千円。2月は3万円。4月はついに売電が上回って東北電力から3万2千円のバックがあった」という。

そのカギは、建物の「遮熱」だ。断熱ではなく、遮熱。熱を蓄熱するのが断熱だが、グラスウールなど従来の断熱材には許容量を超える熱を放出してしまう課題がある。対して、そもそも熱を撥ね返してしまうのが遮熱。厚さ8ミリというアメリカ生まれの薄型遮熱シート(『リフレクティックス』)は、もともと宇宙船や宇宙服の反射絶縁材として開発されたもので、応用した大型工場や倉庫などの冷却に優れた効果を発揮。それを一般住宅に採用した。遮熱材で家全体を包み込んだ高性能な住環境だからこそ驚くべき省エネ効果を生み、結露もない。「伝統」と「性能」が共存した次世代住宅の誕生である。

真心こめた住みやすさ



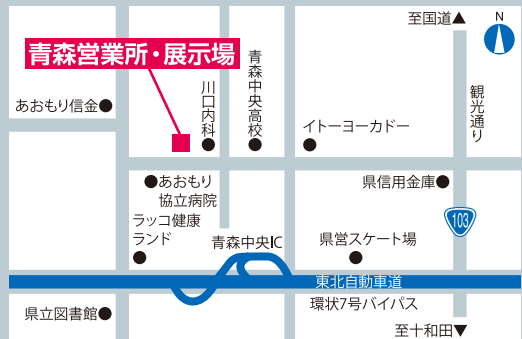
株式会社 大山建工

本社 ●三戸郡五戸町大字切谷内字淋代14-1
TEL.0178-68-3353 FAX.0178-68-2454

本部 ●八戸市大字河原木字千刈田7-1
TEL.0178-21-3055 FAX.0178-21-3033
<http://ooyamano-ie.jp/>

内舟渡常設展示場 ●八戸市長苗代字内舟渡84-13 産業道路沿い

青森営業所 ●青森市東大野1丁目8-3
TEL.017-762-3001 FAX.017-729-0488



株式会社 大山建工

宮澤 様邸

ユーザー訪問

八戸市吹上

2016年10月竣工

■延べ床面積/36.00坪(119.24㎡)

■使用青森県産材/ヒバ(土台)、スギ(柱、2階洋室床、玄関ポーチ内壁)、アカマツ(1階床、縁側、梁)。



八戸市吹上XX。カーナビの画面に映し出された道路がまるで日光のいろは坂のようだった。地名のとおり、いかにも風が吹き上げそうな高台へと坂道を上っていく。到着地点の標高は52m。遠くに街並みを望むように建っている真新しい家が(株)大山建工で建てた宮澤様邸だ。

2階建てで、切妻屋根から薪ストーブの煙突が突き出ている。玄関ドアの周りに、縦に張られた板が目に残った。厚さが2cmもある分厚い無垢のスギ。その板が、「この家は地元の木で建てた家です」と

「青森県産材の家」を示す表札のように見えた。

決め手は「青森県産材」

大山建工の姿勢に共鳴

帰宅すればまずは薪ストーブに火を入れる、というご主人。リビングの一角の土間に薪ストーブを設置しているから、薪の木屑やストーブの灰が落ちても掃除がしやすいし、掃き出し窓を開けて出入りできるので外の薪も運び入れやすい、とお気に入りだ。ストーブの前

の椅子に座ってビールを飲みながらくつろぐひととき。生まれながらの赤ちゃんと奥様は実家に里帰りしているので、完成したわが家をまだ見ていないという。ご主人が薪ストーブにスマホを向けて炎が燃え盛る様子を撮影し、奥様に送信する——そんな姿が想い浮かぶ。家



玄関ドアの周りには厚さ2cmの分厚い無垢のスギが張られている

族3人の暖かな暮らしが始まる年明けが待ち遠しそうだ。

——初めから県産材の家を建てようという計画だったのですか。

「ご主人の話 「木の家」という具体的なものじゃなく、木の風合いって言いますか、木に囲まれた家なら落ち着けるのではないかと。妻も「木」に関心がありました。ただ、私は「木」であれば外材とか国産とか特に頓着はなかったんですけど、妻が、「県産材」に強いこだわりを持っていたんです。」



リビングの一角に設置された薪ストーブ。床がタタキなので掃除しやすい

——何かきっかけがあったのでしょうか。

ご主人の話 よく読んでいたのは「本」です。県産材を使った「住宅本」（「青森県産材でエコな家づくり」）。地元の山の木を使って建てた家がいろいろ紹介されていて、それに影響を受けたようです。それまで、漠然とハウジングパークとか完成見学会などを妻と見て歩いてきたんですけど、「木」を見せた造りの家はあまりありませんでした。それで、「県産材」で建て

ている八戸市内の工務店に的を絞って見学しようということになって、最初に訪ねてみたのが大山建工（本部）でした。大山建工が地元の木にこだわった地産地消の家づくりに積極的なことは新聞などで読んでいました。東京や九州にも青森県の木

を売り込んでいることも。シヨールームを見学したあと、なみ内舟渡の常設展示場も拝見しました。岩手の久慈の見学会にも行ってみましたよ。

——もうその時点で大山建工



床に張られたアカマツの質感が暖かな雰囲気を出しているリビング



木目の色と壁の白が美しいハーモニーを奏でるリビングダイニング

に決めていたのですか。

ご主人の話 いえ。並行して実はもう1社と話を進めていました。ところがどうもその工務店は県産材を使うことにはあまり積極的ではなく、「一部なら使うこともできます」という言葉を聞くにつけ、そこで打ち切らせてもらいました。お客が要求したから「一部に使う」と、要求されなくても「全面的に使う」のではまるで違います。地元のを大事にする大建の企業姿勢に共鳴しました。妻が愛読している県産材の

「住宅本」にも「大山の家」は毎回載っていますしね。

薪の炎の前でくつろぐ 柔らかな暖かさ行渡る

——内舟渡の展示場をご覧になっていかがでしたか。

ご主人の話 中に入ってみて、「あ、これならくつろげそう」と感じましたね。家づくりをいけば、私の場合「くつろぎ」なんです。帰ってきて、ほっとくつろぐ。そこそがわが家ですよ。展示場はリビングが吹き抜け



多目的ルームとして造られたスペースはご主人の書斎に



リビング続きの和室の掘り炬燵(上)とトイレのヒバのペーパーホルダー(下)は奥様のご要望

になっていて、その下に薪ストーブが置いてありました。まさしく「くつろぎ」の象徴が薪ストーブ、といった感じでしたね。

それで、わが家にも吹き抜けと、薪ストーブを取り入れることにしました。吹き抜けを通して2階のホールにも、ドアを開けた室内にも暖かさが行き渡ります。ホールは一応、家族で使える多目的ルームとして広く取りましたけど、造り付けの力

ウンターにパソコン置いて今のところは私の書斎代わりにしています。

——玄關ポーチにスギの板を張ったのは奥様のご要望ですか。

ご主人の話 そうです。それと、トイレのヒバのペーパーホルダーも妻の要望で、下北の村口産業というところに注文して作ってもらったんです。「住宅本」の取材にきたら、「ぜひ写真を撮ってもらって」って妻からメールがきていましたよ。

あこめ・住む・つくる

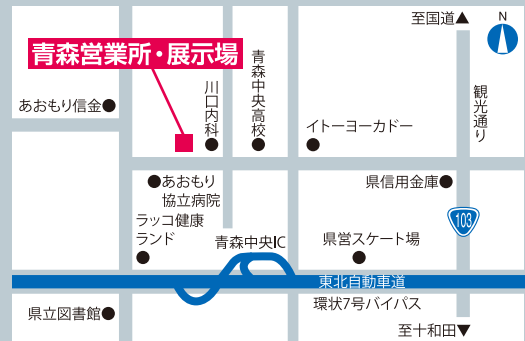
株式会社 大山建工

本社 ●三戸郡五戸町大字切谷内字淋代14-1
TEL.0178-68-3353 FAX.0178-68-2454

本部 ●八戸市大字河原木字千刈田7-1
TEL.0178-21-3055 FAX.0178-21-3033
<http://ooyamano-ie.jp/>

内舟渡常設展示場 ●八戸市長苗代字内舟渡84-13 産業道路沿い

青森営業所 ●青森市東大野1丁目8-3
TEL.017-762-3001 FAX.017-729-0488





有限会社 キーポイントホーム

熊谷 様邸

ユーザー訪問

弘前市城東中央

2016年4月竣工

■延べ床面積/36.75坪(121.72㎡)
■使用青森県産材/〈構造材〉ヒバ(土台)、スギ(柱)、カラマツ(梁)〈内装材〉スギ無垢材(床、壁、天井)、スギ集成材(建具、カウンター)、タモ集成材(階段)。

DATA

小さくても書斎がほしい—
—それが読書好きのご主人の要望。2階の子供部屋の向かいにそのスペースが取れた。本でたちまち一杯になってしまいうな3帖ながら、念願叶った自分の部屋にご主人はご満悦。小学校4年のご長男が望んだ口フトも、お嬢ちゃんがほしかった花を飾るペランダも付いた。奥様はといえば化学物質のニオイが一切しない、新鮮な室内の空気に満足げな笑み。転勤族のご主人は目下単身で市外で

「ニオイなし」が決め手 「木の家」の新鮮な空気

電光掲示板の気温が30度に迫ろうとしていた弘前市。到着した熊谷様邸の下見板張りの玄関回りが目に涼やかだ。陽射しから逃げるように入った家の中も涼しく、てっきりエアコンが効いているものばかり思ったら、違った。リビングのエアコンは、ついていなかった。なのに、この涼しさ。外気との温度差が3〜4度もあるという、なるほど「ハウス・オブ・ザ・イヤー・イン・エナジー2015」(注)で優秀賞を受賞した住宅性能である。床のスギの無垢材、壁面のスギの羽目板の色合いが柔らかなリビングで、真夏日でもエアコン要らずの快適な住み心地を伺った。

の社宅暮らしたが、週末には、蒸し暑い社宅とは別天地の涼しいわが家に帰るのが何よりの楽しみようだ。

ご主人の話 以前は「新築の家」といえば、イメージとして、床がピカピカの合板フロアに、壁、天井は白っぽいクロス—
—が思い浮かんだものでした。それってハウスメーカーの展示場などで印象に刻まれたイメージだったんですね。でも、キーポイントホームの展示場を見て



部分的に木肌を生かした外壁がアクセントになっているエントランス



スギ板の柔らかな温かさに包まれたリビング。外気の温度より3~4度も低い自然な涼しさが心地いい



ホタテ貝殻入り漆喰塗り壁とスギの色合いが美しくマッチした室内空間

からは、変わりました。こういう「木」の雰囲気を出した造りもあるんだなって、選択肢の一つに加わりました。足裏から伝わってきたスギ板の柔らかな温かさも印象に残りましたね。

奥様の話 展示場を見学したのは3年前です。ポストに見学の会のチラシが入っていたんです。玄関ドアを開けて、まず、あのニオイがしませんでした。鼻につんとくる化学物質のニオイ。わたし、ダメなんです。いろいろ展示場とか見学会とかを見ましたけど、たいがいあのニオイがしましたね。キーポイント



子供部屋もホタテ貝殻入り漆喰塗り壁。室内の空間が山にでもいるみたいに新鮮だ

トホームには、ありませんでした。するのは木の匂いだけ。まずそれが、わたしにとっては第一関門突破でした。近くの山で育った木を使い、壁には漆喰と珪藻土を塗ってクロスは一切貼っていない——と阿保さん（阿保勝之社長）が説明してくれました。室内の空気が山にでもいるみたいに新鮮で、連れていった子供たちも生き生きしていましたよ。

優れた省エネ性が評価 W断熱と遮熱が効果大

ご主人の話 土地を取得したのが2015年の夏です。土地が決まれば次は工務店探し。でも、暗黙の了解っていうか、もう私も妻も気持ちちはキーポイントホームに固まっていましたね。展示場っていわば“見せ物”でしょうから各社とも豪華に飾り立てているけど、キーポイントホームの場合は、木を張った室内に“生活感”が感じられたんです。それが好印象として残りました。

阿保さんは、展示場のほかに自社の現場にも何軒か案内してくれました。皆さんそれぞれ予算があつてその枠内で建てているわけですから、例えば室内の壁を全部漆喰にすれば予算オーバーになるならリビングだけにするとか、どこをどう工夫して予算内に収めているか、現場を見ながら具体的に教えてくれました。金額だけの帳尻を

合わせるのではなく、中身についてわれわれの納得を得ながら一緒に家づくりをしていく、という真正直な姿勢に安心感を覚えました。妻も同じです。決まるとして決まったという感じですね。

——『ハウス・オブ・ザ・イヤー・イン・エナジー』の内容を教えてください。

阿保社長の話 車にも『カー・オブ・ザ・イヤー』がありますよね。いわばその住宅版です。熊谷様邸1軒が受賞したというのではなく、そういう性能を付



白を基調にした清潔感あふれるキッチン



トータルとしての省エネルギー性に優れた居住空間



加した当社の『あおもり産・木の家』という住宅シリーズが評価頂いたもので、去年施工した3軒が対象になりました。建物と、ヒートポンプ式暖房などエネルギー設備機器をセットとして捉え、トータルとしての省エネルギー性の優れた住宅

を表彰するものです。——『優れた省エネルギー性』を数値で表すと……。阿保社長の話 2013年10月に施行された、住宅の改正省エネルギー基準に基づいて計算したUA値(外皮平均熱貫流率)が熊谷様邸は、0.28W

／㎡・Kです。専門的な話になりますが、熱の伝えやすさを表す値が熱伝導率なのに対し、熱貫流率は、使用した断熱材の壁や屋根、床1㎡を1時間あたり通過する熱量を表す値で、小さいほど性能が良いこととなります(弘前周辺地域基準は0.56W／㎡・K)。基準の半分ほどで暮らせる住宅性能なので、省エネ性が非常に高い家づくりだという事が分かります。

ご主人の話 第一印象で大それたと思います。キーポイントホームの展示場をひと目見て、しつくりきたんです。他社では感じられなかった、しつくり感。室内の造りだけでなく、初めてお会いした阿保さんにも、ね。

(写真提供／キーポイントホーム)

.....

(注)「ハウス・オブ・ザ・イヤー・イン・エナジー」：財団法人・日本地域開発センターが主催。住宅の省エネルギー性をさらに向上させることにより地球温暖化など環境負荷の削減を図ることを目的とする。



有限会社 キーポイントホーム

弘前市泉野3丁目11-11
TEL.0172-88-7705 FAX.0172-88-7706
http://www.ki-pointhome.com/
E-mail : staff@ki-pointhome.com



有限会社 キーポイントホーム
泉野展示場「地域ブランドの家」



有限会社 キーポイントホーム

T 様邸

ユーザー訪問

弘前市在府町

2015年7月竣工

- DATA
- 延べ床面積/26.00坪(86.11㎡)
 - 使用青森県産材/〈構造材〉ヒバ(土台)、スギ(柱)、カラマツ(梁)〈内装材〉スギ無垢材(床、壁、天井)、スギ集成材(造作家具、カウンター)、タモ集成材(階段、造作本棚)。

2階リビングから、さらに階段がのびていた。1階からの階段と同様にタモ集成材を使った立派な階段で、3階建てに見える。上がっていくと、片流れの屋根勾配を利用したロフトになっていた。天井は低いが、奥行き3間(5・64m)、10帖もある広さは、ロフトというより部屋である。床のスギ、天井のスギ羽目板に囲まれた雰囲気

“窓と窓”がつなぐ親子 生活に潤い与える距離

“スーパの冷めない距離”が親子関係をうまく保つコツ。T様の場合は、それよりずっと身近な“窓と窓”である。2階リビングの窓のすぐ外に、ご両親の家の窓が向かい合っている。手が届きそうなこの近さが、「すごく便利なんですよ」と笑う奥様。たとえば、食事の支度をしようとして醤油が切れていたとき——奥様は携帯を取り出す。すると向かいの窓が開いて、顔を覗かせるのは、奥様のお母様だ。窓から、炉端焼きの柄の長いヘラみたいに差し出した棒の先に、お母様が醤油ビンを結び付けてくれる。またあるときは、孫娘にあげると、お母様がひよいと放つてよこしたクッキーの袋を奥様がナイスキャッチ。スギの木肌が柔らかな空間には、窓と窓で親子がつながる“潤い”も溶け込んでいるようだ。



2階のリビングにはロフトに続く階段がある

山小屋のよう。小学生のお嬢ちゃんだけでなく、遊びにきた友だちもすっかり気に入って、泊まっていったとか。ロフトの天井は予定ではクロス貼りだったところを、「阿保さん(阿保勝之社長)が木を張ってくれたんですよ。娘、大喜びです」と奥様がつこり。

奥様の話 新聞に入ってきたチラシがきっかけで、やっと“気に入った家”に出会ったんです。キーポイントホームの見学会の住宅でした(「青森県産材でエコな家づくり」Vに掲載の大



キッチンと対面式のリビング。カーテンが付いている窓を開ければすぐ隣がご両親の家

柳様邸)。それまで結構あちこち展示場とか見学会を見ていたんですけど、ピンとくるものがありませんでした。家を新築するので、当然こっちは

自由設計とばかり思っていたのに、あるハウスメーカーから、間取りが決まっている企画住宅を勧められたときには、「夢」から「現実」に引き戻されたみたい





リビングからロフトに上がるタモ集成材の階段。まるで3階建てのよう

で興ざめしましたね。

「家つてやはり建てるほうにすれば夢なんですよ。そりゃ予算内でないと家は建たないことは分かりますけど、初めから会社サイドの都合に合わせた企画住宅を勧められても、モノを押し付けられているみたいで、受け入れられませんでした。そんなときだったんです、キーポイントホームに出会ったのは。」

ご主人の話 私、映画の西部

劇が好きなんです。『荒野の七人』とかね。あの中に酒場が出てくるでしょ。酒場の出入口に付いている、あの木のスイングドア。それを付けてほしいというわけじゃなく、そういう遊び心的な雰囲気を取り入れた家がいいなって。キーポイントホームの見学会で、室内の「木」を目にしたときは「わくわく感

を覚えましたね。木

の柔らかさ、あったかさ。他社の家にはなかった感覚で、スイングドアに通じるものがありました。特に気に入ったのが「小上がり」です。

床からの高さを利用して引き出しが付いているし、キッチンと対面しているからダイニングになるし、家族のくつろぎの空間でもあるし、客間としても使えるし、机代わりにもなりそうなカウンターも付いていれば、本棚としても使える。そんな細長い棚もあるしと、遊び心一杯でした。遊び心が、わくわくさせるのですね。

山小屋のようなロフト 家族で「わくわく」共有

奥様の話 キーポイントホームの展示場を見に行ったら、娘



娘さんの大のお気に入りの山小屋のようなロフト

は板張りの床がすっかり気に入ったようで、走り回っていましたよ。青森県産のスギだと阿保さんが説明してくれました。地元の木だと知って親しみが湧きましたね。2階から階段を上がって行ったロフトにも娘は大はしゃぎで、なかなか下りてきませんでした。建てる家には絶



将来は二つに仕切る奥様とお嬢ちゃんの部屋



映画「スターウォーズ」のフィギュアを飾ってあるご主人の部屋

対ロフトを作ってあげなくちゃって親心に思ったものです。——「W断熱」に奥様の関心が高かったそうですが。

阿保社長の話 外気・躯体・内部空間から熱移動による損失を受けられないように考えられた工法です。構造躯体の基礎・土台・柱・桁・屋根の外側、内側両方に断熱材を施工し、躯体その

ものをはさみ込んだような造りが「W断熱工法」です。外側には板状の断熱材を張り、内側の壁の中には綿状の断熱材を充填します。内側の充填断熱だけだと、陽射しを受けて熱くなれば、冷めなくなってしまうんです。それで外側でも断熱して、さらに遮熱シートで壁、屋根を覆ってしまいます。猛暑になる

ほどできめんに断熱効果が表れますね。奥様は、住んでいたアパートが寒くて、断熱のことを勉強されていたようです。

奥様の話 頼むのはキーポイントホームに決めていましたけど、30年も続くローンの支払いのこととか、あれこれ考えると不安が募って、契約を交わすまでには時間がかかりました。けど、その間、阿保さんは急かさないうで、じつと待っていてくれました。「最終的にはご夫婦でよく相談して結論を出してください」といってお手紙まで書いて見守ってくれたことが、結局背中を押してくれたんです。

ご主人の話 こっちの要望に対して、それが難しくても、阿保さんは頭ごなしに否定しないで、「なんとか工夫しましょう」と応じてくれました。ロフトの天井のスギ板もその一つなんです。おかげさまで、私も「男の隠れ家」的なわくわく感を楽しんでますよ。

(写真提供/キーポイントホーム)



有限会社 キーポイントホーム

弘前市泉野3丁目11-11
TEL.0172-88-7705 FAX.0172-88-7706
http://www.ki-pointhome.com/
E-mail: staff@ki-pointhome.com



有限会社 キーポイントホーム
泉野展示場「地域ブランドの家」



有限会社 キーポイントホーム

リノベーション

松宮 隆志 様邸

ユーザー訪問

DATA

弘前市北園

2016年8月竣工

■延べ床面積/51.00坪(168.93㎡)

■使用青森県産材/スギ(床、腰壁、天井)、クリ(ウッドデッキ床・手摺り)など。

築28年の家を、改修するか、建て替えるか——。判断の決め手は「総ヒバ」にあった。松宮様邸は、梁のマツを除く木材のすべてにヒバを使った総ヒバ造り。樹齢100年で成木になるヒバの特性は、28年くらいの経年にはびくともしない耐久性

の高さだ。家の骨格となる柱はそのまま生かし、断熱・気密・耐震の住宅性能を付加した大掛かりなりノベーション。リビングと一体にスギで囲まれたダイニングの木のテーブルで、完成するまでをお伺いした。

——「総ヒバ」は松宮様の要望

ヒバの柱そのまま残す 断熱・耐震の性能向上



リビングの掃き出し窓から射し込む陽光が、床のスギ板に陽だまりをつくっている。目に柔らかな木肌のスギが腰壁にも勾配天井にも張られた、ぬくもりある木の空間。リノベーションと一部増築で松宮様邸のリビングは明るく広く新築並みに生まれ変わった。以前は、南側に隣家が接近していたため窓がなく、そこは台所の壁面になっていた。唯一ガラスが透明だった東側の出窓から見えるものといえば道路くらい。それだけに、庭の見える窓が奥様の長年の夢だったという。台所の位置を反転させ、南側に向けたリビングに掃き出し窓を取ることが可能となったのは、隣家が移転したあとの更地を半分取得して庭のスペースを確保したから。ようやく念願が叶った奥様よりも、5坪増えて広くなったリビングで居心地良さそうにくつろいでいる同居の2人のお孫さんたちのほうが、満足しているかもしれない。



奥様の長年の夢が叶った“庭の見える窓”

だったのですか。
ご主人の話 要望というより、総ヒバで建てる大工さんだったということですね。義父の知り合いの大工さんで、昔気質の大工は木にこだわるからいい、って薦めてくれたんです。津軽では「木といえばヒバ」という昔からの伝統があるから、その大工さんも、屋根の垂木に至るまでヒバにこだわって建ててくれました。あの当時はまだ「県産材



5坪増えて広くなったリビングは、床下の断熱工事も行って快適な空間に生まれ変わった

住宅」という言葉は使われてい
なかつたけど、総ヒバ造りこそ
県産材住宅ですよ。

阿保勝之社長の話 お義父様
も木が好きな方だそうで、保管
していた立派なケヤキを、出窓
の地板に提供してくれたんだ
そうです。そのケヤキを今回、

造り付けのカウンターとして
再利用しました。

ご主人の話 問題だったのは、
リビングの床暖房です。新築当
初から暖かくなかつたんです。
冷え込む日は仕方なく石油ス
トープを焚いて凌ぎましたけ
ど、一般的に3か月分くらい

灯油代がわが家ではひと月に
かかってしまうのだから大変で
したよ。

——工事の仕方に関か問題が
あったのでしょうか。
阿保社長の話 床を剥してみ
たら、床暖房のパネルではな
く、配管だけがされていまし

た。その配管の下に、断熱材の
グラスウールを敷き、さらにそ
の下に、板状の発砲断熱材が敷
設されてあつたんですが、それ
がたわんだり、隙間があつたた
めに、配管からの熱が下に逃げ
てしまつていたのです。これでは
いくら暖房を強くしても暖ま
らなかつたわけです。逃げた熱
で基礎回りがしつかり乾燥して
いたのは良かつたんですが、や
はり暖房が充分暖まらないの
では快適な暮らしとは言えま
せん。



ピアノの脇が元の家壁の位置。そこから左(南側)が増築したリビング



造り付けのケヤキのカウンター(右)は、改修前の出窓の地板を再利用したもの

木のリビングに集まる お孫さんらもくつろぐ

——リノベーションの工事内容を教えてください。

阿保社長の話 生活空間の快適性は、目に見えない部分がいかにしっかり施工するかにかかっています。まずは床下の断熱です。松宮様邸は、3尺ピッチの大引きと、その上に1尺ピッチの根太ねだを乗せ、大引きには板状の断熱材、根太にはグラスウールをはめ込んで二重に断熱しました。壁には壁体内に



壁には筋違をダブルに入れて耐震性を強化



床下もしっかり断熱することで暖房効率もアップ

ロックウールを吹き込んで均一に断熱し、3尺×10尺の合板パネルの耐力面材を張ったうえに、筋違すじわいもダブル(X型)に入れ

て耐震性を高めています。屋根にも外部には板状の断熱材、内部には吹き込み断熱材を施しました。暖房は、最新式のガス＋ヒートポンプ・ハイブリッド熱源機のパネルヒーターを採用。これで、目に見えない断熱・耐震性能にしっかりと裏打ちされた、省エネで快適で丈夫な家に生まれ変わったのです。

—— キーポイントホームとの出会いは？

ご主人の話 チラシを見て展示場を見に行ったのが最初です。床のスギ板と、太いスギの

大黒柱がまず目に留まりましたね。それまで他社の展示場や完成見学会の家も見学はしていたけど、「木」を前面に打ち出した造りはありませんでした。地域のスギを積極的に使った地産地消の家づくりをしていることにも関心を覚えました。

阿保社長の話 松宮様は県庁OBの方ですから、お立場上〃地場〃や〃地域〃に関心があつたのでしょうか。近くの山の木を使うことが地域の活性化につながる、という意味で。

ご主人の話 家内は初め、展



リビングからウッドデッキを違って庭に出られる

示場の床の板を好まなかったんです。節が嫌だと。でも、阿保さんに案内されて建築現場を何軒も見させてもらっているうちに、いつの間にか節のことは言わなくなりましたね。熱心な阿保さんにお任せしようという気持ちになってきたからでしょう。

家が新しくなつて、小学生と中学生の孫も2階の自分の部屋よりリビングで長く過ごすようになりましたね。スギ板が張られた室内が快適だからでしょう。これも一つのリノベーション効果ですね。

.....
 へメモ〜リノベーションとリフォームの違い
 「リノベーション」骨組みだけの状態にして、構造補強(耐震・断熱・気密施工など)や間仕切り、水廻りを移動し、これまでの住宅以上の性能向上を目的とした比較的大規模な工事。

「リフォーム」老朽化の修繕や模様替え(内装クロスや設備機器交換など)により、住宅建築当初の性能に戻す事を目的とした工事。



有限会社 **キーポイントホーム**

弘前市泉野3丁目11-11
 TEL.0172-88-7705 FAX.0172-88-7706
<http://www.ki-pointhome.com/>
 E-mail : staff@ki-pointhome.com

